

2022年度事業報告

コロナ禍が過ぎ、多くの園が平常の運営に戻ろうとする中で、やはり問題となったことは、少子化、定員割れ、そして不適切保育の報道でした。園にとってはマイナスのイメージが強く、「またか、」と思われた先生も多かったと思います。ただでさえ、園の運営を平常に戻すことで疲労困憊する中、不安を誘発する報道ばかりでは参ってしまいます。園長会として日々努力する保育士を守る為に「守ろう保育園こども園！」窓口を設置する事で、なんとか急場を凌いだ形となっています。二律背反するようですが、不適切保育を起こさない為には、まず日々努力する保育士を守ること、同時に不適切保育は絶対に許さないという強い意志を持ち続けることが大切と考えております。引き続き、市と情報交換を続けながら、この大きな問題に対処して参ります。

【横浜市子ども・子育て会議、横浜市児童福祉審議会】

横浜市子ども・子育て会議、横浜市児童福祉審議会においては、市に対して、これ以上の保育園新設を行わないよう働きかけてきました。スポット的に入所困難な地区があっても、5～6年しますと、その地域にある保育園の定員割れの可能性が出てきます。保育園が将来を見通せない事業であれば、その事業に関わりたいと思う人も減り、ネガティブスパイラルの状況を生みます。また、横浜市から0歳児入所者数を減らす働きかけもありますが、10月1日の待機児童数は、0歳児が一番多いことも認識しませんと、保育対策が間違えた方向を向いてしまいます。園長会としては、0歳児の入所枠を減らさないよう、定員になるまでは園に補助を出すようお願いしています。年間通して0歳児がいつでも入所できる状況になれば、保護者の育児のプレッシャーは下がりますし、入所決定後のキャンセルも減り1歳児の入所が4月に集中することはありません。

【保育士確保対策】

保育士確保対策としましては、株式会社ネクストビート(保育士バンク!)と協力し、就職相談会を行いました。大変多くの学生の来場があり、今年度も行いたいと考えております。就職につながったケースも多く、専門家のノウハウをお借りすることは大切です。参加費は、通常価格の25%程度に設定しましたが、正直、園長会の負担は大きく、横浜市に更なる援助をお願いしたいところです。

【キャリアアップ研修】

キャリアアップ研修は、会主催の集合研修の他、後援としてオンデマンドのかたちで行い、保育士の勤務に及ぼす影響を最小限にするよう努めました。計約1000人以上の受講者が対象となり、

分野別リーダー1単位、専門リーダー4単位取得など、条件が厳格になる中で、処遇改善Ⅱの支給が止められる園が無いよう努めました。今年度も継続して行って参りますので、ぜひ参加をお願いします。また、一昨年度、大雨などの自然災害、コロナ対策により規定時間に達せなかった受講者の補講も行うことができました。

【一時保育】

WEB予約システムなどを使った、新しい一時保育の利用については、更に、保護者が使いやすいものにできるよう、利用料の上限を低くするよう、また、余裕活用型の担当保育士の雇用状況表への記載をなくすよう横浜市に求めました。年度末の時間がない中で、横浜市担当者の方も迅速に対処していただき、保護者、園の負担が大きくならないよう配慮していただきました。しかし、一時保育担当者を設定しますと、雇用状況表に保育氏名を記載できないことから、ローテーション保育士雇用費を確保できない状況が生まれます。例えば、ローテーション保育士雇用が4時間、一時保育担当が4時間の保育士であっても、補助が出るようお願いしているところです。

【横浜市幼児教育推進委員会】

年2回行われている横浜市幼児教育推進委員会におきましては、接続期カリキュラムに対して、保育園こども園と小学校の受け取り方に開きを感じております。小学校がもう少し保育園で行っている教育の部分に目を向けるか、私たちが園で行っている教育の内容を丁寧に小学校に説明しなければならないと考えます。

【「キントーン」による事務業務効率化】

数年前からお話をいただき、請求事務などが「キントーン」に集約されたわけですが、残念ながら、事務業務効率化には程遠い状態にあり、年度が変われば全て情報を再入力するという非効率的な状態が続いています。改善をお願いしております。

【組織規定の改定】

昨年度の総会議案書で「案」を掲載し、お話したように、『組織規定』の一部を改定し、会長、副会長、理事の選出をわかりやすく行えるようにしました。巻末の『組織規定』をご参照ください。